

14. 食品の安全確保対策

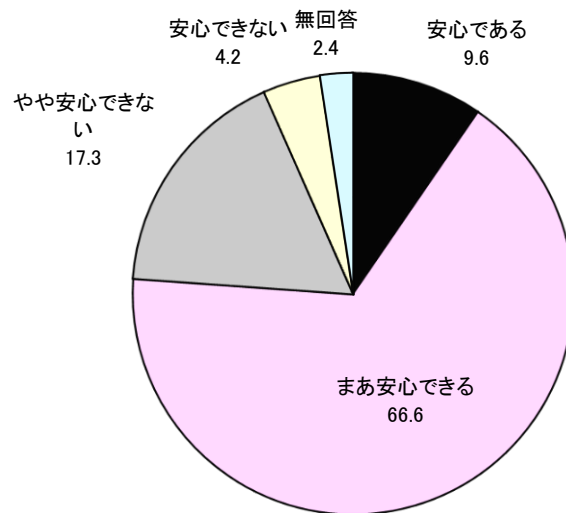
(1) 流通食品の安全

問36 あなたはふだん流通している食品に対して、安心できると感じていますか。次の中から、近いものを1つだけ選んでください。

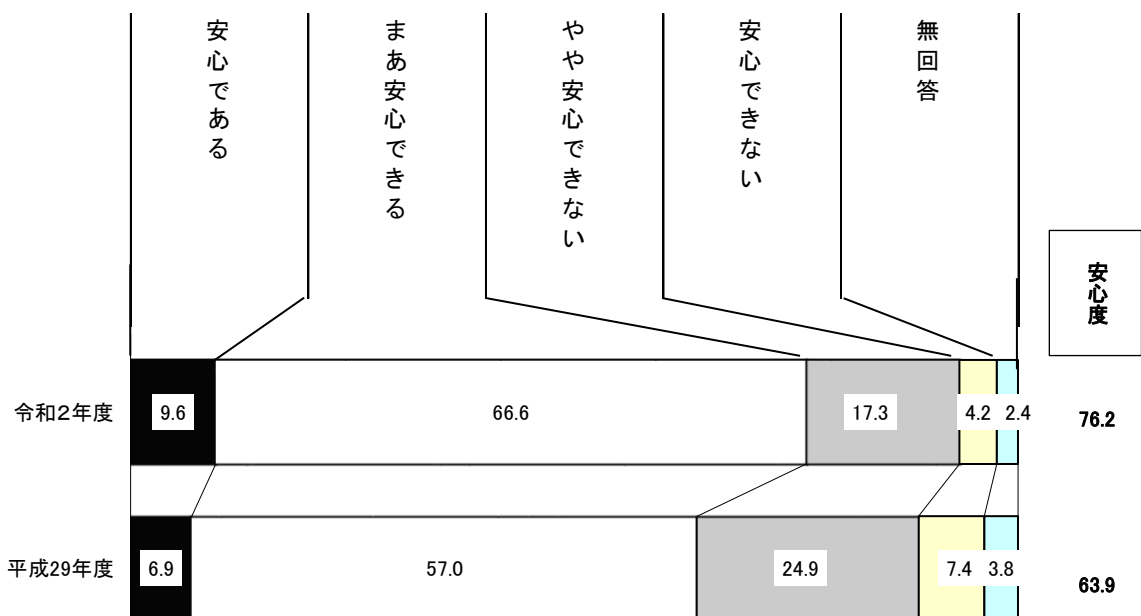
**流通食品の安全に対する安心度は7割
前回より12.3ポイント増加**

流通食品の安全について、「安心度」(「安心である」「まあ安心できる」)は76.2%である。それに対し、「安心できない」(「やや安心できない」「安心できない」)割合は21.5%となっている。

前回調査と比較すると、「安心度」は12.3ポイント増加、「安心できない」は10.8ポイント減少している。



(単位: %)



(単位: %)

＜属性による比較＞

【生活圏別】

安心度は広島地方生活圏が 77.5%と、備後地方生活圏(72.4%)、備北地方生活圏(75.9%)と比べてやや高い。

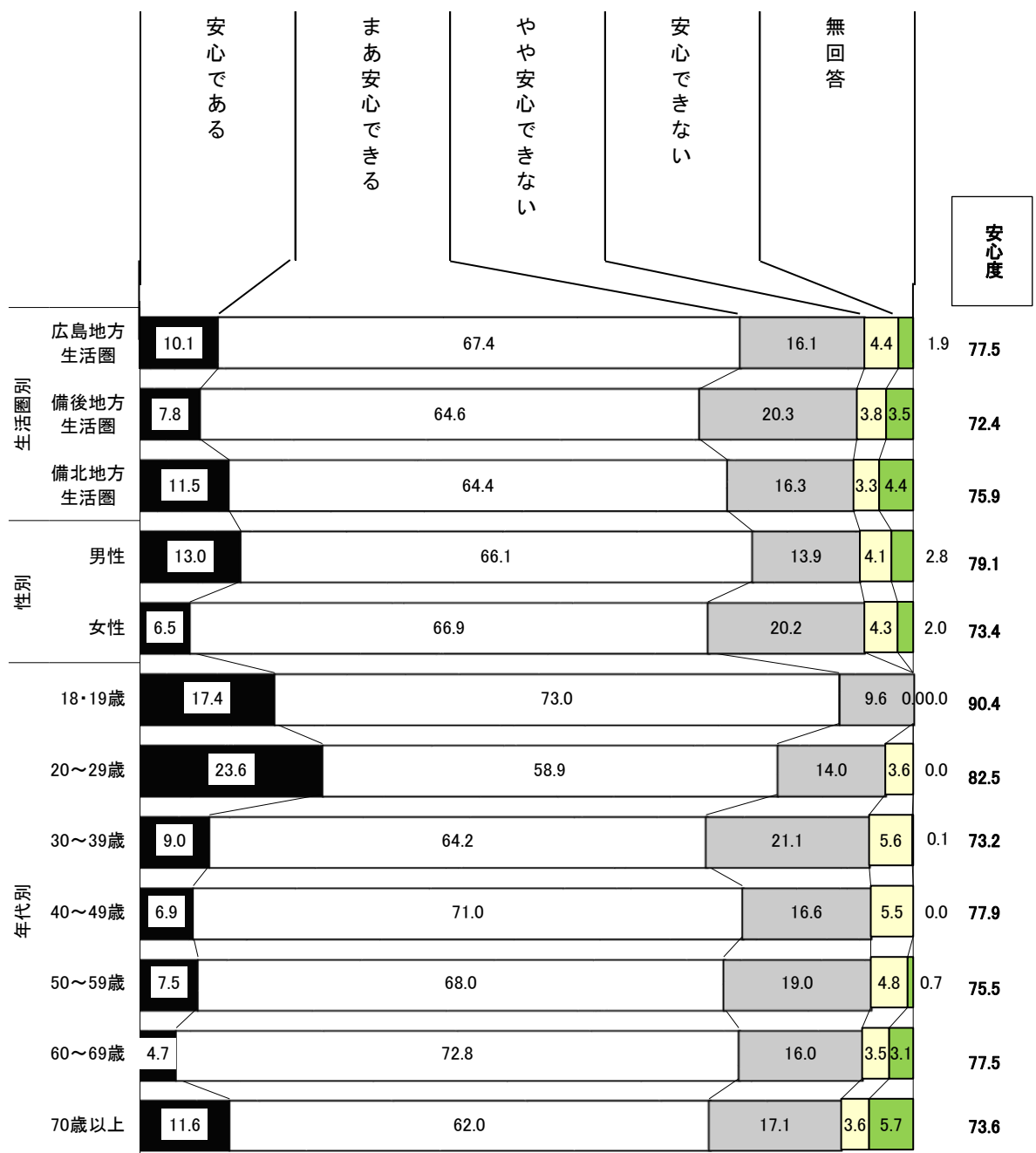
【性別】

男性の安心度は 79.1%と女性(73.4%)と比べて 5.7 ポイント高い。

【年代別】

20 歳代以下の安心度は8割を超えて高い一方で、30 歳代以上は7割程度となっている。

流通食品の安全(生活圏, 性, 年代別)



(単位: %)

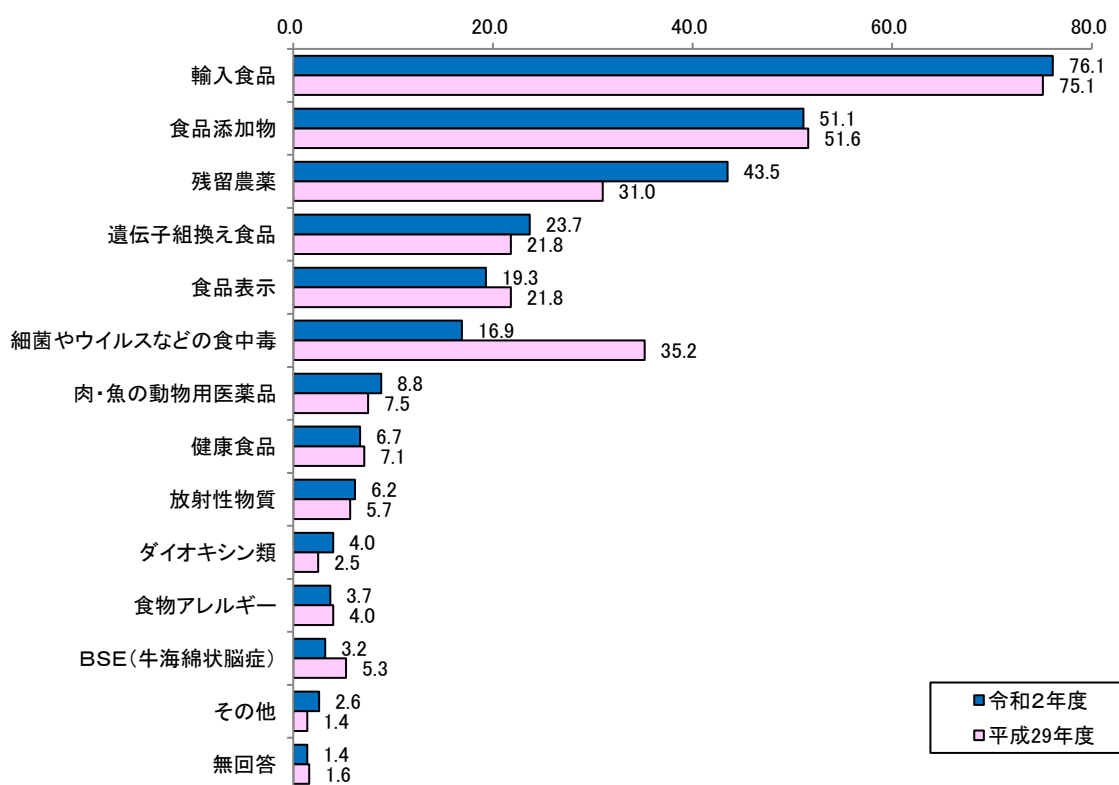
(2) 流通食品に「安心できない」と感じること

問37 問36で「やや安心できない」または「安心できない」を選択した方にお伺いします。あなたが食品に「安心できない」と感じることは何ですか。あてはまるものを3つ以内で選んでください。
(M. A.)

流通食品が安心できない点は「輸入食品」「食品添加物」

流通食品に「安心できない」と感じることは、「輸入食品」が 76.1%と最も多く、次いで「食品添加物」(51.1%)、「残留農薬」(43.5%)となっている。

前回調査と比較すると、「残留農薬」は 12.5 ポイント増加した一方で、「細菌やウイルスなどの食中毒」は 18.3 ポイント減少している。



<属性による比較>

【生活圏別】

広島地方生活圏で「食品表示」(21.5%)、備後地方生活圏で「細菌やウイルスなどの食中毒」(23.6%)が他の生活圏と比べて5ポイント以上高い。

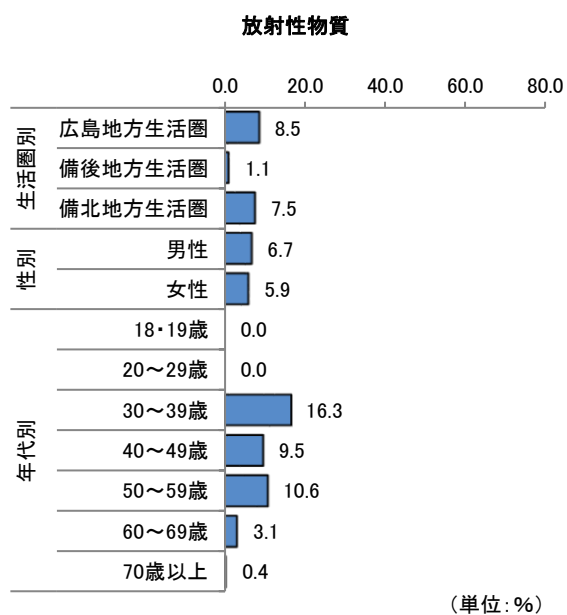
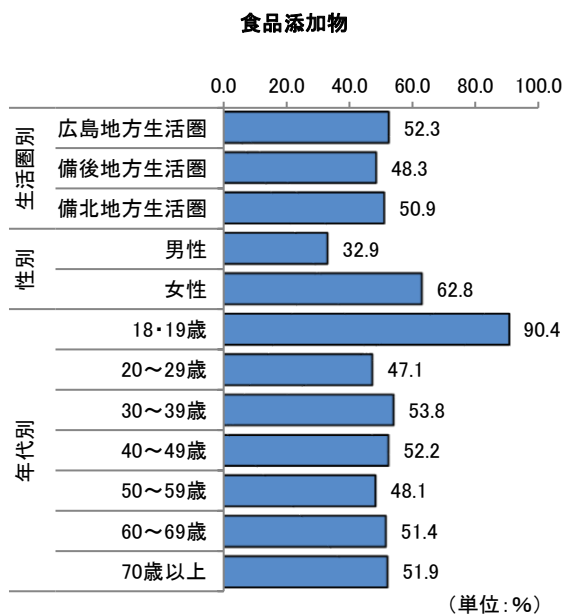
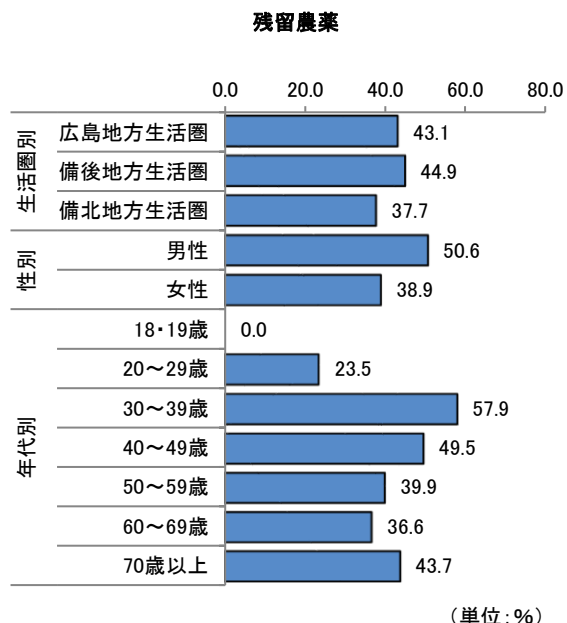
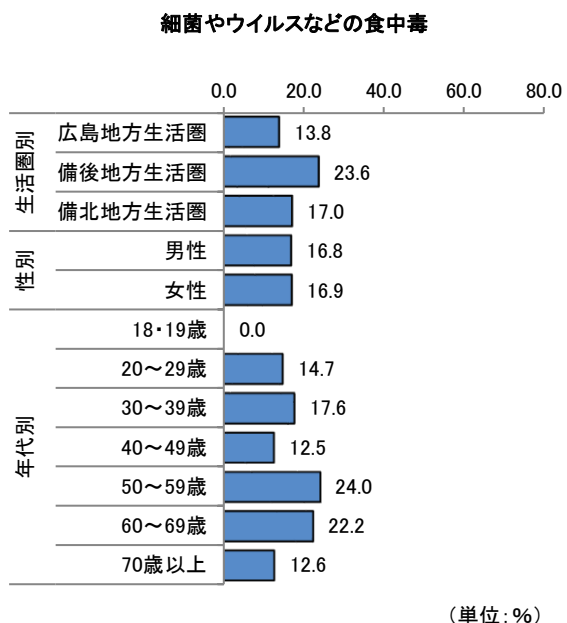
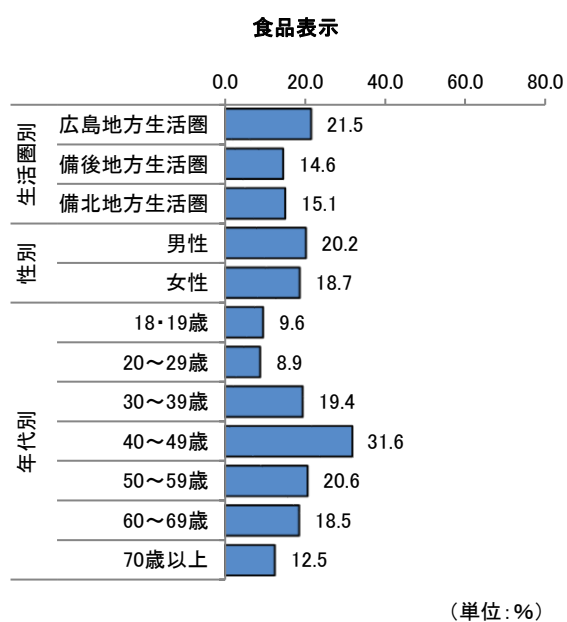
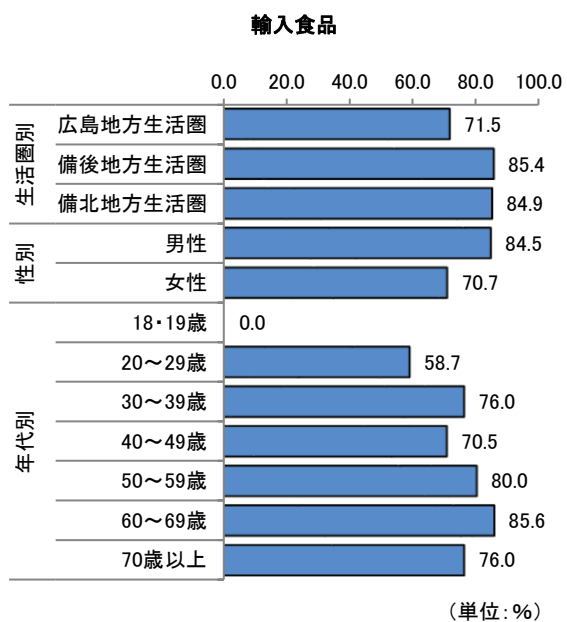
【性別】

「輸入食品」は男性(84.5%)が女性(70.7%)と比べて 13.8 ポイント高く、「食品添加物」は女性(62.8%)が男性(32.9%)と比べて 29.9 ポイント高い。

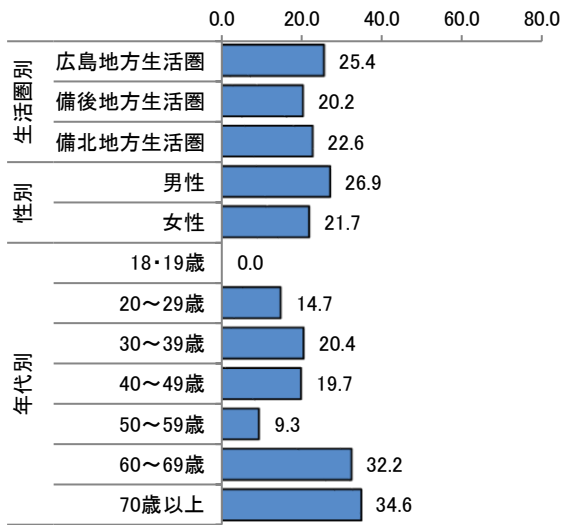
【年代別】

「輸入食品」は 50～60 歳代が8割を超えて他の年齢層と比べて高く、「残留農薬」「食品添加物」は 30 歳代で5割を超えて他の年齢層と比べて高い。

流通食品に「安心できない」と感じること(生活圏, 性, 年代別)

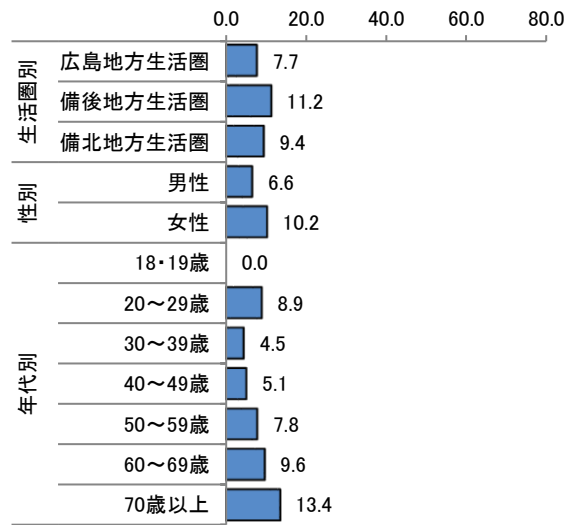


遺伝子組換え食品



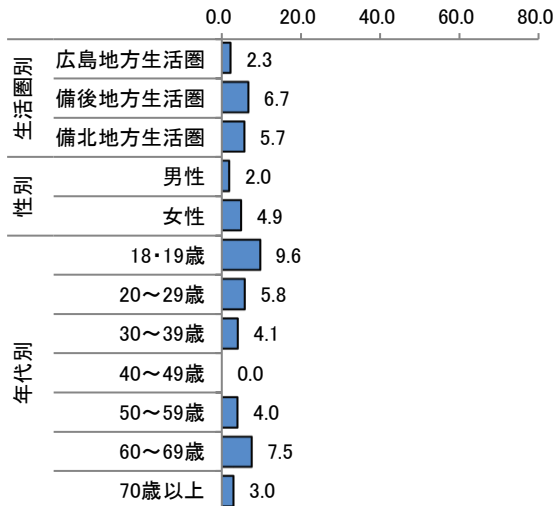
(単位: %)

肉・魚の動物用医薬品



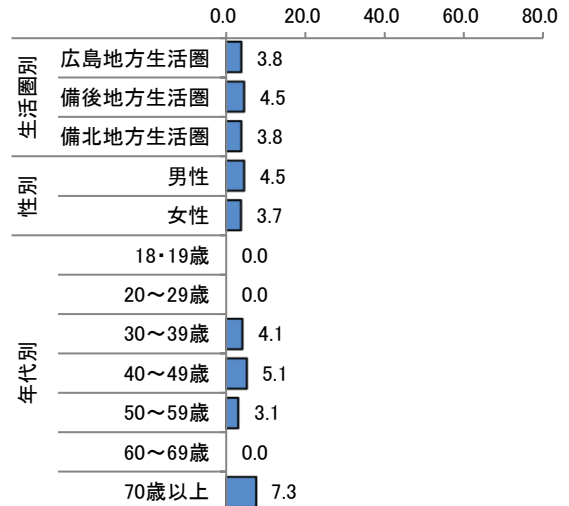
(単位: %)

食物アレルギー



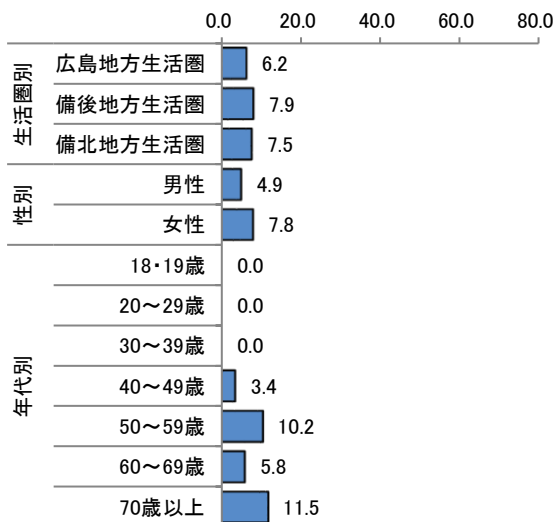
(単位: %)

ダイオキシン類



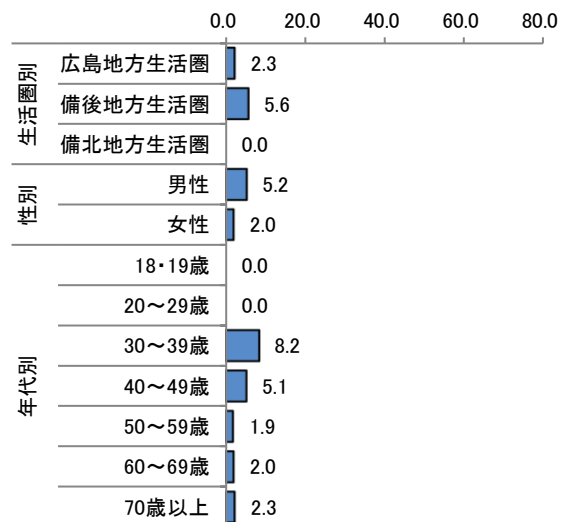
(単位: %)

健康食品



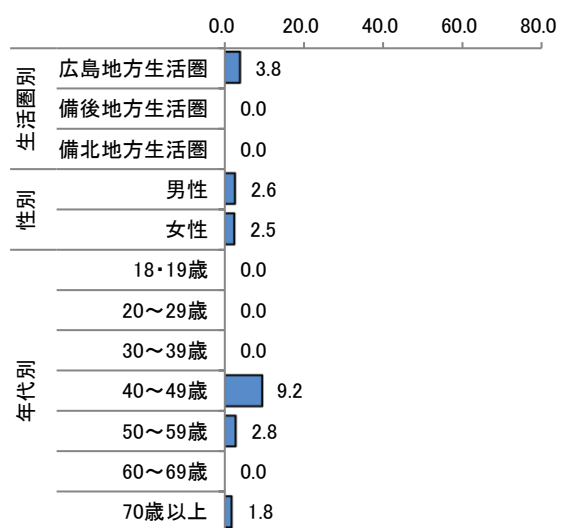
(単位: %)

BSE(牛海綿状脳症)



(単位: %)

その他



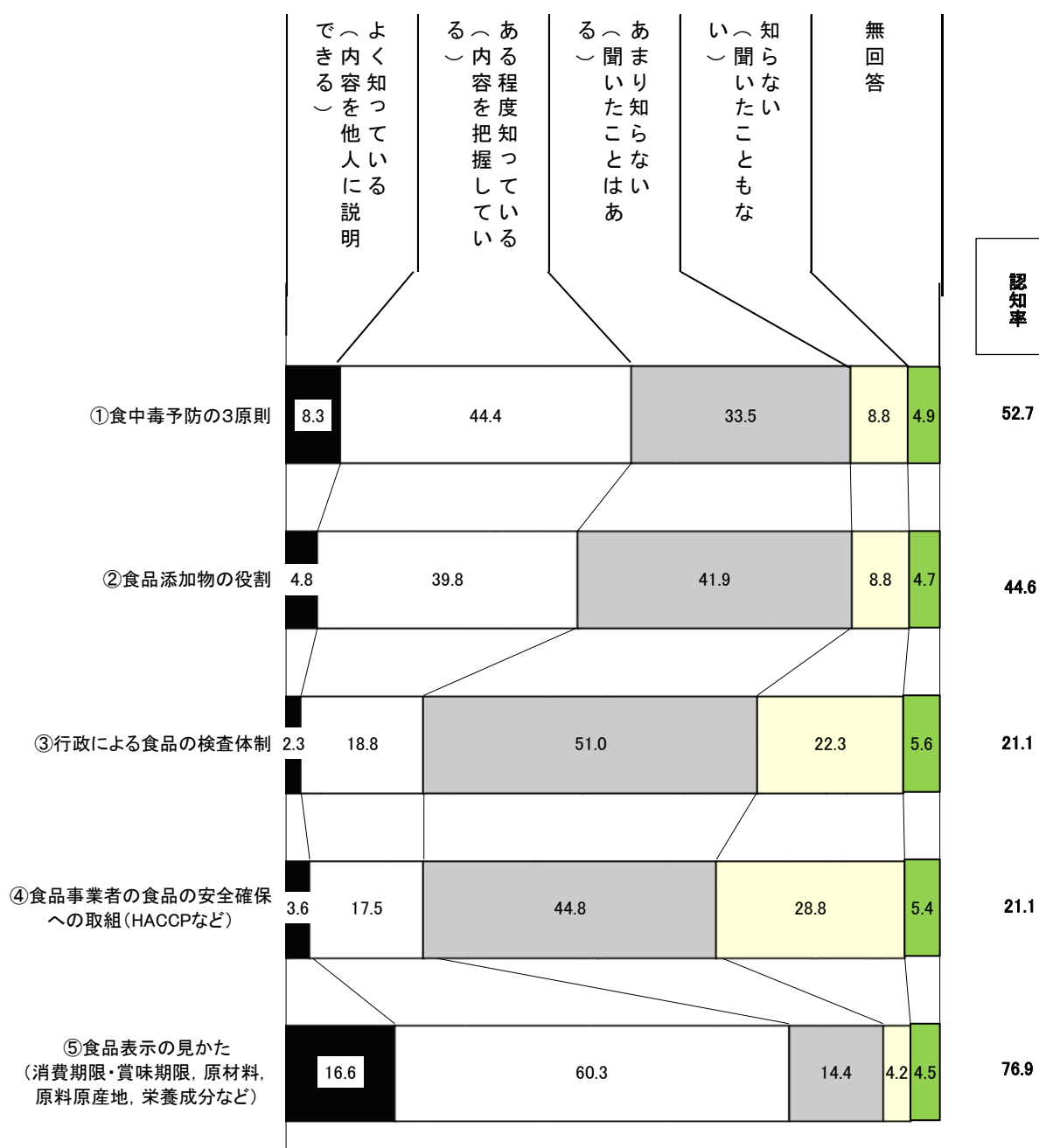
(単位:%)

(3) 食品に関する知識

問38 あなたは、次のことについてどの程度知識があると思いますか。それぞれについてあてはまるものを1つずつ選んで○をしてください。

「食品表示の見かた」の認知率は7割、
「食中毒予防の3原則」の認知率は5割

食品に関する知識について、認知率（「よく知っている」「ある程度知っている」）が高いのは「⑤食品表示の見かた」（76.9%）、「①食中毒予防の3原則」（52.7%）、「②食品添加物の役割」（44.6%）となっている。



(単位: %)

＜属性による比較＞

【生活圏別】

「認知率」の割合は、広島地方生活圏で「②食品添加物の役割」(45.1%)「④食品事業者の食品の安全確保への取組」(21.7%)「⑤食品表示の見かた」(77.8%)、備後地方生活圏で「③行政による食品の検査体制」(22.9%)、備北地方生活圏で「①食中毒予防の3原則」(56.7%)が他の生活圏と比べて高い。

【性別】

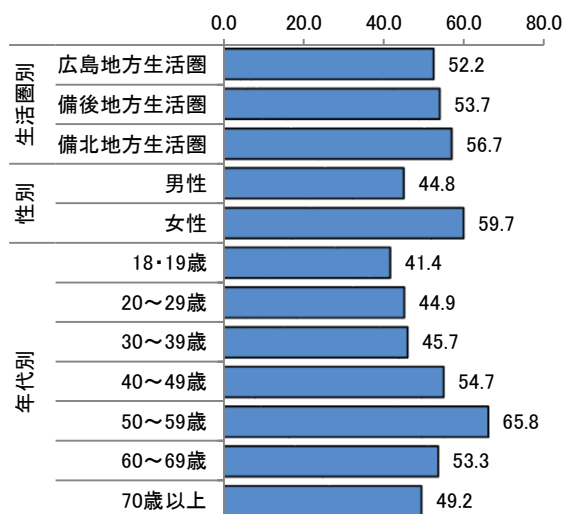
女性は「①食中毒予防の3原則」(59.7%)の認知率が男性(44.8%)と比べて 14.9 ポイント、「②食品添加物の役割」(49.1%)の認知率が男性(39.4%)と比べて 9.7 ポイント、「⑤食品表示の見かた」(80.6%)の認知率が男性(72.7%)と比べて 7.9 ポイント高い。

【年代別】

「⑤食品表示の見かた」の認知率はすべての年代で7割を超え、「①食中毒予防の3原則」の認知率は40～60歳代で5割を超え、「②食品添加物の役割」の認知率は50歳代で5割を超えて高い。

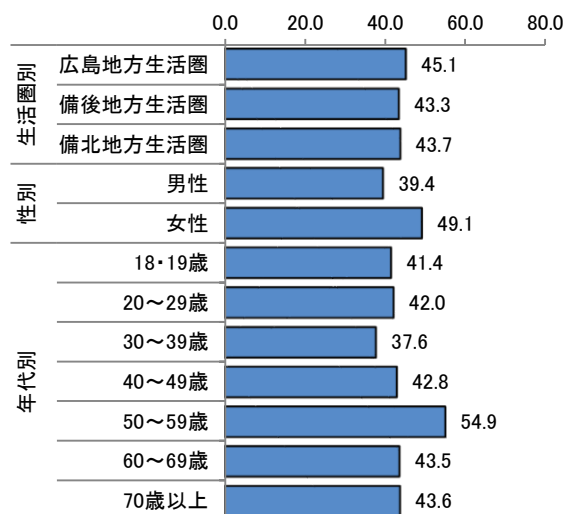
食品に関する知識 認知率(「よく知っている」「ある程度知っている」)(生活圏, 性, 年代別)

①食中毒予防の3原則



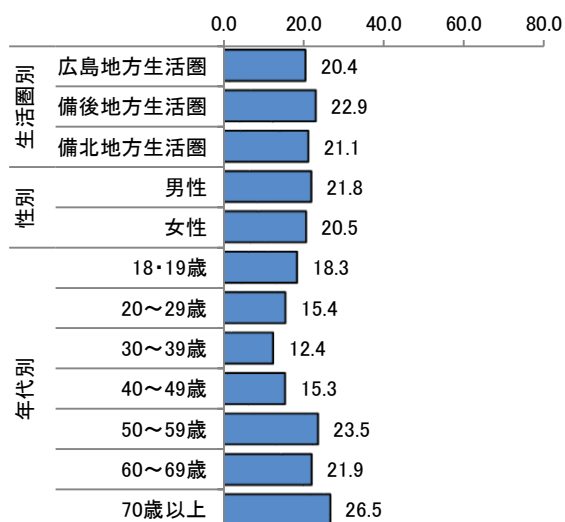
(単位: %)

②食品添加物の役割



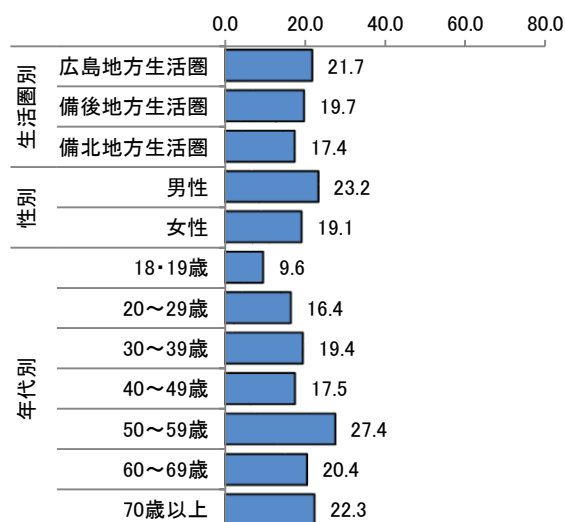
(単位: %)

③行政による食品の検査体制



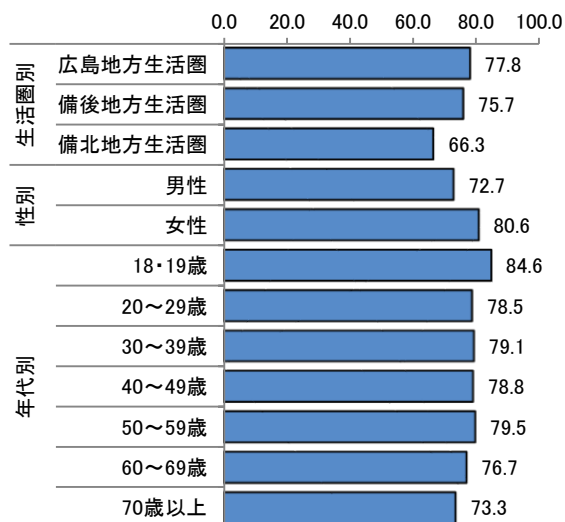
(単位: %)

④食品事業者の食品の安全確保への取組



(単位: %)

⑤食品表示の見かた



(単位: %)